

公 開
資料 3

第 3 6 9 回 幹 事 会
公 開 審 議 事 項

令和 6 年 7 月 2 9 日

日 本 学 術 会 議

公 開 審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
Ⅲ 公開審議事項						
1. 規則関係						
提案 1	国際アドバイザー ボードについて	会長	4	日本学術会議において、海外のナショナル・アカデミー等との連携を強化し、日本学術会議の国際活動への助言等を行うため、日本学術会議国際アドバイザーボードを開催する必要があるため。	日比谷副会長	—
2. 委員会関係						
提案 2	(機能別委員会) 科学者委員会 分科会委員の決定 (追加 1 件)	会長	5	科学者委員会学術体制分科会委員を決定する必要があるため。	三枝副会長	内規18条
提案 3	(分野別委員会) (1)運営要綱の一部改正（新規設置 2 件） (2)分科会委員の決定（新規 2 件、追加13 件、取り消し1件）	(1)言語・文学委員会委員長、哲学委員会委員長、情報学委員会委員長 (2)第一部長、第二部長、第三部長	6	分科会の設置に伴い、運営要綱を一部改正するとともに、分科会委員を決定する必要があるため。	第一部長、第二部長、第三部長	(1)会則27条 1 項 (2)内規18条
3. 協力学術研究団体関係						
提案 4	日本学術会議協力学術研究団体を指定すること	科学者委員会委員長	14	日本学術会議協力学術研究団体への新規申込のあった下記団体について、科学者委員会の意見に基づき、指定することとしたい。 ①特定非営利活動法人生物試料分析科学会 ②一般社団法人日本公衆衛生看護学会 ③公共コミュニケーション学会 ④日本ルーラルナーシング学会 ⑤一般社団法人日本母性看護学会 ⑥一般社団法人日本在宅救急医学会 ⑦九州森林学会 ⑧日本いのちの教育学会 ⑨日本国際バカロレア教育学会 ⑩CANELA 日本・スペイン・ラテンアメリカ学会 ⑪一般社団法人日本老年療法学会 ⑫計算社会科学会 ⑬一般社団法人日本小児臨床アレルギー学会 ⑭日本音韻論学会 ⑮一般社団法人日本産業保健法学会 ⑯一般社団法人日本地域理学療法学会 ⑰一般社団法人日本糖尿病病理学療法学会 ⑱日本スポーツ体育健康科学学術連合 ※令和 6 年 7 月 29 日現在2, 163団体（上記申請団体を含む）	三枝副会長	会則36条

4. 国際関係

提案5	令和6年度代表派遣について、実施計画の追加及び派遣者を決定すること	会長	18	令和6年度代表派遣について、実施計画の追加及び派遣者を決定する必要があるため。	日比谷副会長	国際交流事業の実施に関する内規第19条2項、22条
-----	-----------------------------------	----	----	---	--------	---------------------------

5. シンポジウム等

提案6	公開シンポジウム「若手×多様性×イノベーションを地方から話すコロキウム」の開催について	若手アカデミー代表	19	主催：日本学術会議若手アカデミー 日時：令和6年9月4日（水）16:00～18:30 場所：Fukuoka Growth Nextイベントスペース（福岡県福岡市）（ハイブリッド開催）	—	内規別表第2
提案7	公開シンポジウム「フューチャー・デザイン2024」の開催について	経済学委員会委員長、環境学委員会委員長	21	主催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、キャノングローバル戦略研究所 日時：令和6年9月14日（土）10:00～18:00、9月15日（日）10:00～17:10 場所：オンライン開催 ※第一部承認	—	内規別表第2
提案8	公開シンポジウム「農業デジタルツインの現状と展望」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長	26	主催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同CIGR科会、食料科学委員会・農学委員会合同農業情報システム学分科会、農学委員会農業生産環境工学分科会、CIGR Plant Factory and Intelligent Greenhouse Working Group、日本生物環境工学会 日時：令和6年9月19日（木）13:30～17:30 場所：大阪府立国際会議場（大阪府大阪市） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案9	日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会「奄美群島の豊かな自然と文化的多様性」（仮題）の開催について	科学者委員会委員長	29	主催：日本学術会議九州・沖縄地区会議 日時：令和6年10月9日（水）14:00～16:10 場所：鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール（鹿児島県鹿児島市）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案10	公開シンポジウム「防災土による地域防災力の向上～行政および研究機関との連携強化の進め方～」の開催について	土木工学・建築学委員会委員長	31	主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会IRDR分科会、防災減災連携研究ハブ（JHoP） 日時：令和6年10月19日（土）or20日（日）14:30～16:00 場所：熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場（熊本県熊本市）（ハイブリッド開催） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案11	公開シンポジウム「第19回防災学術連携シンポジウム『土地を知り、土砂災害・地盤災害に備える』」の開催について	防災減災学術連携委員会委員長	33	主催：日本学術会議防災減災学術連携委員会 日時：令和6年10月19日（土）～10月20日（日） 場所：オンライン開催	—	内規別表第2
提案12	公開シンポジウム「地域課題解決に挑む実践型アカデミー創設に向けてー那須地域から始まる未来実装学アカデミー」の開催について	若手アカデミー代表	35	主催：日本学術会議若手アカデミー、那須会議実行委員会 日時：令和6年10月26日（土）14:00～17:00 場所：那須ハイランドパークイベント館（栃木県那須郡）（ハイブリッド開催）	—	内規別表第2

提案13	公開シンポジウム 「歴史教育シンポジウム（「歴史総合」をめぐって（8））－歴史総合・日本史探究・世界史探究の史資料を使う」の開催について	史学委員会委員長	38	主催：日本学術会議史学委員会、史学委員会教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会、日本歴史学協会 日時：令和6年10月27日（日）13：00～17：00 場所：一橋大学（東キャンパス）東2号館2201教室（東京都国立市）（ハイブリッド開催） ※第一部承認	—	内規別表第2
提案14	公開シンポジウム 「バイオマテリアル・生体医工学の研究開発戦略」の開催について	基礎医学委員会委員長、臨床医学委員会委員長、歯学委員会委員長、化学委員会委員長、機械工学委員会委員長、電気電子工学委員会委員長、材料工学委員会委員長	40	主催：日本学術会議材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会合同バイオマテリアル分科会、機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同生体医工学分科会 日時：令和6年10月29日（火）9：30～12：00 場所：仙台国際センター会議棟（宮城県仙台市） ※第三部承認	—	内規別表第2
提案15	公開シンポジウム 「女性理系研究者が拓く未来－歯学から芽生える新たな可能性」の開催について	科学者委員会委員長、歯学委員会委員長	43	主 催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、歯学委員会病態系歯学分科会、歯学委員会臨床系歯学分科会、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会 日 時：令和6年10月30日（水）16：00～18：00 場 所：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）（ハイブリッド開催） ※第二部承認	—	内規別表第2
提案16	日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会「社会的課題と学術統合による研究と教育」（仮題）の開催について	科学者委員会委員長	46	主催：日本学術会議中国・四国地区会議 日時：令和6年11月30日（土）13：30～17：10 場所：高知工科大学永国寺キャンパスA213教室（仮）（高知県高知市）（ハイブリッド開催） ※科学者委員会承認	—	内規別表第2
提案17	公開シンポジウム 「動物の安楽死を考える」の開催について	農学委員会委員長、食料科学委員会委員長、基礎医学委員会委員長	49	主催：日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会 日時：令和6年11月30日（土）15：30～17：30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	—	内規別表第2

9. 後援

提案18	国内会議の後援をすること	会長	51	以下について、後援の申請があり、関係する部に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。 ・第65回大気環境学会年会 ・第45回日本熱物性シンポジウム ・第67回自動制御連合講演会 ・サイエンスアゴラ2024（年次総会） ・第26回日本感性工学会大会 ・第8回世界災害看護学会国際研究集会 ・SAMPE Japan 先端材料技術展2024	会長	後援名義使用承認基準3(2)ウ
------	--------------	----	----	---	----	-----------------

10. その他

件名		資料(頁)
参考	今後の予定 今後の幹事会及び総会の日程につきご確認ください。次回幹事会は8月30日(金)14:30～開催予定。	53

●日本学術会議国際アドバイザーボードについて（案）

（ 令 和 6 年 月 日 ）
日本学術会議第 回幹事会決定

日本学術会議において、海外のナショナル・アカデミー等との連携を強化し、日本学術会議の国際活動への助言等を行うため、以下のとおり日本学術会議国際アドバイザーボード（以下「ボード」という。）を開催する。

1. 構成・運営

- （1）ボードの構成員は、5人程度とする。
- （2）日本学術会議会長（以下「会長」という。）又は副会長（国際活動担当）は、海外のナショナル・アカデミーの役員等を日本学術会議国際アドバイザーボードメンバー（以下「ボードメンバー」という。）として会長に推薦することができる。
- （3）会長は、推薦を踏まえて、幹事会の承認を得て、ボードメンバーを委嘱する。
- （4）ボードメンバーの任期は令和8年9月30日までとする。
- （5）会長は、必要に応じ、ボードにボードメンバー以外の関係者の参加を求めることができる。

2. 議事内容の公表等

- （1）ボードは、率直な意見交換を行うため、原則、非公開とする。
- （2）資料及び議事要旨については、原則、公開とする。ただし、公開することにより、当事者又は第三者の利益及び公共の利益を害するおそれがある場合その他会長が必要と認める場合には、非公開とする。

3. その他

その他ボードの運営に関して必要な事項は、会長が定める。

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

【機能別委員会】

○分科会委員の決定（追加 1 件）

（科学者委員会学術体制分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
狩野 光伸	岡山大学副理事／副学長／学術研究院ヘル スシステム統合科学学域教授	第二部会員

【設置予定：第369回幹事会（令和 6 年 7 月 29 日）、追加決定後の委員数：15名】

分野別委員会運営要綱（平成26年 8 月28日日本学術会議第199回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改 正 後					改 正 前				
別表第 1					別表第 1				
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	設置期間
言語・文学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	言語・文学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	言語・文学委員会・哲学委員会合同文化の邂逅と言語分科会	1. 言語文化交流に関する新たな指針の策定 2. 実践的な言語文化交流の具体的な方策に係る審議に関すること	15名以内の会員又は連携会員	令和 6 年 7 月29日 ～ 令和 8 年 9 月30日		(新規設置)			
哲学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	哲学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	言語・文学委員会・哲学委員会合同文化の邂逅と言語分科会	言語・文学委員会に記載	言語・文学委員会に記載	言語・文学委員会に記載		(新規設置)			
情報学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	情報学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	情報学委員会サイバーセキュリティ分科会	1. デジタルシステムの社会受容性向上 2. 新しい情報技術（AI、量子計算機）の安全性/セキュリティ上の課題 3. サイバーセキュリティ研究の法的・倫理的課題 4. 第25期に発出された見解「安全安心なデジタル社会に向けて」のフォローアップに係る審議に関すること	30名以内の会員又は連携会員	令和 6 年 7 月29日～令和 8 年 9 月30日		(新規設置)			

附 則
この決定は、決定の日から施行する。

言語・文学委員会・哲学委員会合同分科会の設置について

分科会等名：文化の邂逅と言語分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、 主体となる委員会に○印を付ける。)	○言語・文学委員会 哲学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	国際情勢と言語情報の様態が大きく変化し新たな展開を見せる中で、世界の言語文化の動向を見極めつつ、言語、文学及び文化に関する我が国からの発信や貢献の可能性を具体的に明らかにすることは、我が国の喫緊の課題である。本分科会は、言語文化交流に関するこれまでの検討を発展的に継承しつつ、分野横断的な視点も加え、①国際情勢や言語情報に関わる現況を踏まえた、言語文化交流に関する新たな指針の策定、②この指針の実現のための実践的な言語文化交流の具体的な方策についての検討、を主たる目的とする。文化交流の理論的枠組みや多様な言語文化に関する知見などについては、哲学委員会とも連携しつつ審議を行う。
4	審議事項	1. 言語文化交流に関する新たな指針の策定 2. 実践的な言語文化交流の具体的な方策 に係る審議に関すること
5	設置期間	令和6年7月29日～令和8年9月30日
6	備考	

情報学委員会分科会の設置について

分科会等名：サイバーセキュリティ分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	情報学委員会
2	委員の構成	30 名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	急速に進化するデジタル技術のもたらす効用と課題に直面する中で、デジタルシステムの社会受容性向上は重要である。特に、新しい情報技術（例えば AI や量子計算機）に関連するセキュリティ上の課題を議論し、その対策を考察する際には、対策を施したシステムの社会受容性やその持続可能性まで踏み込んで学術的な議論を深める必要がある。 本分科会では、過去に社会に展開された先端的なデジタルシステムを題材に、多様な視点から、社会に与えた価値の評価と社会受容性の向上策について議論する。また、サイバーセキュリティ研究の法的・倫理的課題や第 25 期に発出された見解「安全安心なデジタル社会に向けて」のフォローアップも含めた包括的な考察を行い、その成果を適切に社会に還元する。
4	審議事項	1. デジタルシステムの社会受容性向上 2. 新しい情報技術（AI、量子計算機）の安全性/セキュリティ上の課題 3. サイバーセキュリティ研究の法的・倫理的課題 4. 第 25 期に発出された見解「安全安心なデジタル社会に向けて」のフォローアップ に係る審議に関すること
5	設置期間	令和 6 年 7 月 29 日 ～ 令和 8 年 9 月 30 日
6	備考	

【分野別委員会】

○分科会委員の決定（新規２件）

（言語・文学委員会・哲学委員会合同文化の邂逅と言語分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
植木 朝子	同志社大学文学部国文学科教授	第一部会員
河野 哲也	立教大学文学部教育学科教授	第一部会員
定延 利之	京都大学大学院文学研究科教授	第一部会員
原田 範行	慶應義塾大学文学部教授	第一部会員
阿部 公彦	東京大学大学院人文社会系研究科教授	連携会員
伊藤 たかね	東京大学大学院情報学環特任教授／東京大学名誉教授	連携会員
今西 典子	東京大学名誉教授	連携会員
大宮 勘一郎	東京大学大学院人文社会系研究科教授	連携会員
久木田 直江	静岡大学名誉教授	連携会員
条川 麻里生	慶應義塾大学文学部教授	連携会員
小泉 政利	東北大学大学院文学研究科教授	連携会員
日向 太郎	東京大学大学院人文社会系研究科教授	連携会員

【設置予定：第 369 回幹事会（令和 6 年 7 月 29 日）、決定後の委員数：12 名】

（情報学委員会サイバーセキュリティ分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
佐古 和恵	早稲田大学理工学術院教授	第三部会員
高田 広章	名古屋大学未来社会創造機構教授	第三部会員
相原 玲二	広島大学上席特任学術研究員	連携会員
阿部 正幸	日本電信電話株式会社社会情報研究所フェロー	連携会員
稲見 昌彦	東京大学先端科学技術研究センター教授	連携会員
井上 美智子	奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科情報科学領域教授	連携会員
位野木 万里	工学院大学情報学部コンピュータ科学科教授	連携会員
岩村 誠	NTT セキュリティ・ジャパン株式会社特別研究員	連携会員
大倉 典子	中央大学研究開発機構機構教授／芝浦工業大学名誉教授	連携会員

岡部 寿男	京都大学学術情報メディアセンター教授	連携会員
柴山 悦哉	東京大学特命教授	連携会員
須藤 修	中央大学国際情報学部教授／中央大学 ELSI センター所長	連携会員
砂原 秀樹	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授	連携会員
住井 英二郎	東北大学大学院情報科学研究科教授	連携会員
竹房 あつ子	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所教授	連携会員
谷 誠一郎	早稲田大学教育・総合科学学術院教授	連携会員
中川 晋一	一般社団法人情報通信医学研究所代表理事／所長	連携会員
原田 悦子	筑波大学名誉教授／客員教授／株式会社アイデアラボリサーチディレクター	連携会員
松浦 幹太	東京大学生産技術研究所教授	連携会員
盛合 志帆	国立研究開発法人情報通信研究機構執行役／サイバーセキュリティ研究所所長	連携会員

【設置予定：第 369 回幹事会（令和 6 年 7 月 29 日）、決定後の委員数：22 名】

○分科会委員の決定（追加 13 件）

（社会学委員会ジェンダー・世代等交差と包摂分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
相澤 美智子	一橋大学大学院法学研究科教授	連携会員
近藤 絢子	東京大学社会科学研究所教授	連携会員

【設置：第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日）、追加決定後の委員数：16 名】

（経営学委員会・健康・生活科学委員会・総合工学委員会合同価値共創社会に資するサービス研究体系検討のための分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
上野 佳奈子	明治大学理工学部建築学科専任教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：14 名】

（基礎医学委員会 IUPHAR 分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
今井 由美子	医療法人徳洲会徳洲会野崎病院附属研究所メディ	連携会員

	カル感染システム研究部研究部長	
萩原 正敏	京都大学大学院医学研究科形態形成機構学教室教授	連携会員

【設置：第 351 回幹事会（令和 5 年 8 月 29 日）、追加決定後の委員数：16 名】

（基礎医学委員会形態・細胞生物医科学分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大和田 祐二	東北大学医学系研究科器官解剖学分野教授／福島国際研究教育機構執行役	連携会員
寺田 純雄	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科神経機能形態学分野教授	連携会員
萩原 正敏	京都大学大学院医学研究科形態形成機構学教室教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：17 名】

（基礎医学委員会・基礎生物学委員会・統合生物学委員会・食料科学委員会・臨床医学委員会・薬学委員会合同動物実験分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
坂上 雅道	玉川大学脳科学研究所教授	連携会員

【設置：第 366 回幹事会（令和 6 年 4 月 23 日）、追加決定後の委員数：9 名】

（臨床医学委員会・総合工学委員会合同放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
志田原 美保	東北大学大学院工学研究科准教授	連携会員

【設置：第 364 回幹事会（令和 6 年 3 月 25 日）、追加決定後の委員数：14 名】

（健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
堀江 正知	産業医科大学副学長／産業生態科学研究所産業保健管理学教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：17 名】

（薬学委員会・薬学教育参照基準検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
小椋 康光	千葉大学大学院薬学研究院教授	連携会員

【設置：第 363 回幹事会（令和 6 年 2 月 29 日）、追加決定後の委員数：10 名】

（薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同毒性学分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
牛島 俊和	星薬科大学学長	連携会員

【設置：第 364 回幹事会（令和 6 年 3 月 25 日）、追加決定後の委員数：10 名】

（地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
木村 園子 ドロ テア	ライブニッツ農業景観研究センター土地利用およびガバナンス領域領域長／フンボルト大学ベルリン生命科学学部農学園芸科教授	連携会員
橋本 禅	東京大学大学院農学生命科学研究科（未来ビジョン研究センター兼任）准教授	連携会員
吉田 丈人	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	連携会員

【設置：第 360 回幹事会（令和 5 年 12 月 22 日）、追加決定後の委員数：32 名】

（情報学委員会 IT の生む諸課題検討分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
佐藤 一郎	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立情報学研究所情報社会相関研究系教授	連携会員

【設置：第 358 回幹事会（令和 5 年 11 月 27 日）、追加決定後の委員数：26 名】

（土木工学・建築学委員会気候変動と国土の未来分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
田村 和夫	建築都市耐震研究所代表	連携会員

【設置：第 358 回幹事会（令和 5 年 11 月 27 日）、追加決定後の委員数：13 名】

（材料工学委員会材料工学中長期研究戦略分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
岸田 晶夫	東京医科歯科大学学生体材料工学研究所教授	連携会員

【設置：第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日）、追加決定後の委員数：24 名】

○分科会委員の決定（取り消し１件）

第 361 回幹事会（令和 6 年 1 月 25 日開催）で決定した下記の者については、決定を取り消すこととする。

（臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同出生・発達分科会）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
杉浦 真弓	名古屋市立大学大学院医学研究科産科婦人科教授	連携会員

日本学術会議協力学術研究団体の新規指定について

	団体名	概 要
1	特定非営利活動法人 生物試料分析科学会 (http://www.bio-sci.org/)	本団体は、生体および生物試料中の様々な物質の分析を通じて、学術の発展、技術の振興、教育・啓発活動に寄与することで、一般市民の健康、保健・福祉の増進に役立てることを目的とするものである。
2	一般社団法人 日本公衆衛生看護学会 (https://japhn.jp/)	本団体は、公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざし、もって国民の健康増進と社会の安定に寄与することを目的とするものである。
3	公共コミュニケーション学会 (https://www.pras-net.org/)	本団体は、公共コミュニケーションの重要性を認識し、行政・議会・大学・NPO・医療福祉・ソーシャルビジネス等に係る広報・コミュニケーションを公共コミュニケーションの内容とし、その意義・内容について、考察し、研究すること等を目的とするものである。
4	日本ルーラルナーシング学会 (http://www.jasrun.org/)	本団体は、へき地における看護の研究を推進し、日本におけるへき地看護学を確立・発展させることをとおして、へき地の保健医療福祉の向上に寄与することを目的とするものである。
5	一般社団法人 日本母性看護学会 (https://bosei.org/)	本団体は、母性看護学の進歩、発展を図り、母子及び女性の健康と家族の福祉に貢献することを目的とするものである。

6	一般社団法人 日本在宅救急医学会 (https://zaitakukyukyu.com/)	本団体は、在宅医療現場で発生する様々な疾患の急性増悪に対して適切に対応するための検討及び救命できるケースに関しては救命するための検討を行う等、安心感のある在宅医療の普及を行うことを目的とするものである。
7	九州森林学会 (https://jfs-q.jp/)	本団体は、九州地域における森林・林業に関する科学および技術の進歩と普及を図ることを目的とするものである。
8	日本いのちの教育学会 (https://inochinokyouiku.wixsite.com/jalde/)	本団体は、いのちの教育に関する研究とその普及・発展を図ることを目的とするものである。
9	日本国際バカロレア教育学会 (https://jaiber.org/)	本団体は、国際バカロレア（IB）教育についての学術研究及び実践研究の推進を図り、会員相互の交流と協力により IB 教育研究の発展に努めることを目的とするものである。
10	CANELA 日本・スペイン・ラテンアメリカ 学会 (https://www.canela.org.es/japones/)	本団体は、スペイン語圏の文学・思想・歴史、スペイン語教授法及び、スペイン語学に関するテーマについて研究し、論議することを目的とするものである。
11	一般社団法人 日本老年療法学会 (https://jgts.or.jp/)	本団体は、学際的な活動を通じて、高齢者の健康増進やリハビリテーションに関する革新的な知見を創出して老年療法学の確立を目指し、保健、医療、福祉領域における学術的貢献のみならず、省庁、行政、産業界と連携して、得られた知見を広く社会実装することを目的とするものである。

12	計算社会科学会 (https://css-japan.com/)	本団体は、計算社会科学の発展・普及に貢献することと、日本における計算社会科学研究に従事する全ての個人・組織に対する交流機会を提供することを目的とするものである。
13	一般社団法人 日本小児臨床アレルギー学会 (http://jspca.kenkyuukai.jp/information/)	本団体は、小児アレルギー疾患に関する学術の進歩、知識の普及、会員相互の連絡、内外の関連機構との連絡を図り、小児の健康の増進に益することを目的とするものである。
14	日本音韻論学会 (http://www.phsj.jp/)	本団体は、「言語音」に関する研究をめぐって、得られた事実が言語理論にどのような意味合いを与えるかを理論的・実験的に研究することにより、対象言語や専門分野を超えた音韻論の啓発と共創を目指すことを目的とするものである。
15	一般社団法人 日本産業保健法学会 (https://jaohl.jp/)	本団体は、産業保健を含めた労働安全衛生全般に関わる現場問題の未然防止と適正な事後解決を図るための法律論等の開発と関係者への教育、関係領域（法学、医学、保健学、心理学、経営学、工学、統計学など）の研究者や実務家の知的、人的な交流に寄与することを目的とするものである。
16	一般社団法人 日本地域理学療法学会 (https://www.jsccpt.jp/)	本団体は、地域理学療法に関する知識の普及、学術文化の向上に関する事業を行い、医療及び社会福祉の充実に寄与することを目的とするものである。

17	一般社団法人 日本糖尿病理学療法学会 (https://www.jspt.or.jp/jsptdm/)	本団体は、糖尿病理学療法に関する知識の普及、学術文化の向上に関する事業を行い、医療及び社会福祉の充実に寄与することを目的とするものである。
18	日本スポーツ体育健康科学学術連合 (https://jaaspehs.com/)	本団体は、スポーツ、体育、健康科学に関する学術団体相互の情報交換、研究協力を促進すると共に、広くこの分野の研究成果を社会に還元することを目的とするものである。

令和 6 年度代表派遣実施計画の追加及び派遣者の決定について

以下のとおり、令和 6 年度代表派遣実施計画の追加及び派遣者の決定を行う。

	会議名称	会 期	開催地/ 形式等	派遣候補者 (職名)	推 薦	内 容
1	アジア科学アカデミー フォーラム 2024	11 月 20 日 ～ 11 月 22 日	ソンナム (韓国)	光石 衛 第三部会員 (独立行政法人大学改革支援・ 学位授与機構理事／東京大学名 誉教授)	国際委員会	・派遣実施計画の追加 ・派遣者の決定 ※現地出席予定

公開シンポジウム
「若手×多様性×イノベーションを地方から話すコロキウム」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和6年9月4日（水）16：00 ～ 18：35
5. 場 所：Fukuoka Growth Next イベントスペース（福岡市中央区大名2-6-11）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：翌日に九州大学において若手アカデミー会議を開催予定
8. 開催趣旨：

我が国の地方部では、人口減少、インフラの老朽化、産業構造の変化、多様な住民の受け入れなど、社会経済状況が大きく変化する一方で、科学者と地域社会との連携によるイノベーションの推進には数多くの課題が残されている。

特に、地方部では職種が限られており、若者が希望するクリエイティブな仕事や高付加価値の職業が少ないため、地方に留まるインセンティブが低いこと、またイノベーションのエコシステムが都市部に比べて整備されておらず、スタートアップや新規事業の立ち上げが困難であるなどの構造的な課題は、特に地方の活力を奪っている。

こうした地域課題や地域間の関係に生じる問題を解決するため、科学者が貢献できる事項は多岐に亘る。同時に、科学者もまた、地域の取り組み、社会、文化から多くを学ぶべきである。

そこで、本公開シンポジウムでは、若手を中心とした多様なパネリストによって、地域社会における科学者の役割を広範に検討し、科学者と地域の多様な主体との連携のあり方を探求する。加えて、地域社会とアカデミアの連携の発展を目指し、地方における高等教育機関の充実や、若者の起業・新規事業支援について、多様な視点から示唆を与えることを目的とする。

9. 次 第：(調整中)

総合司会：武田 秀太郎（九州大学都市研究センター准教授／日本学術会議連携会員／若手アカデミー未来を拓く学術イノベーション分科会委員長）

16：00 開会挨拶

玉田 薫（九州大学副学長・主幹教授／日本学術会議第三部会員／総合工学委員会委員長）

16：10 シンポジウムの開催趣旨、日本学術会議若手アカデミーの活動紹介

小野 悠（豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授／日本学術会議連携会員／若手アカデミー代表）

16：20 セッション1「若手 × 多様性 × 学問と地域の連携」

ファシリテータ：木村 草太（東京都立大学政治学研究科・法学部教授／日本学術会議連携会員／若手アカデミー地域社会とアカデミアの連携に関する分科会委員長）

高田 恭子（広島大学大学院人間社会科学研究科准教授）

コーネット 可奈（アクセンチュア(株) AI チーム Managing Director）

嶋田 吉朗（学校法人嶋田学園飯塚高等学校常務理事）

高校生2名

17：20 セッション2「若手 × 多様性×地方の新たなイノベーション」

ファシリテータ：武田 秀太郎（九州大学都市研究センター准教授／日本学術会議連携会員／若手アカデミー未来を拓く学術イノベーション分科会委員長）

名倉 勝（東京工業大学イノベーションデザイン機構特任教授／一般社団法人スタートアップエコシステム協会理事）

関 大吉（九州大学都市研究センター 特任助教／株式会社 aiESG 最高経営責任者（CEO））

堀 ナナ（Tensor Energy 株式会社 創業者／共同代表）

有馬 友美（エデュポルテ株式会社 プランニングコーディネーター）

18：30 閉会挨拶

馬奈木 俊介（九州大学大学院工学研究院都市システム工学講座教授／日本学術会議第一部会員）

18：35 閉会

10. 関係部の承認の有無：若手アカデミーのため該当しない

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会委員）

公開シンポジウム
「フューチャー・デザイン 2024」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議経済学委員会・環境学委員会合同フューチャー・デザイン分科会、一般財団法人キャノングローバル戦略研究所
2. 共 催：大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所（予定）、京都先端科学大学フューチャー・デザイン研究センター（予定）、一般社団法人フューチャー・デザイン
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和6年（2024年）9月14日（土）10：00 ～ 18：10
9月15日（日）10：00 ～ 17：10
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

世界に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵略、イスラエル・パレスチナ情勢など、世界の指導者は利己的な目先の利害を最優先して戦争や侵略を厭わないようです。さらには、20世紀の半ば頃から将来世代に重荷を背負わせる「将来失敗」が加速しています。「地球の限界(プラネタリーバウンダリー)」の研究者は、炭素、窒素、リンの循環、生物多様性などは、もう元に戻ることはできない限界（ティッピングポイント）を超えてしまったと警告しており、環境の「将来失敗」は取り返しがつかないところまでたどり着こうとしています。

しかし、私たちは、「目先の利益を差し置いてでも、将来世代のしあわせを目指すことでしあわせを感じる」という性質を持っているのではないのでしょうか。これを「将来可能性」と名付け、フューチャー・デザイン（FD）は、「将来失敗」を回避するために、私たちが「将来可能性」を発揮できる社会のデザインを目指しています。

このような背景を持つ本シンポジウムはすでに6回開催されていますが、「フューチャー・デザイン 2024」では、大学教育におけるFD実践のためのコンソーシアムの設立、ウェールズやデンマークでのFDセッションの実践、FDを自治体（岩手県矢巾町）の基礎と

する「フューチャー・デザイン条例（仮）」の制定、長野県社会福祉協議会におけるFD, FD 実践のためのマニュアルの作成など、最新のFD 活動における多様なテーマと共に個別の報告を予定しています。

9. 次 第：

9月14日（土）

	司会：小林 慶一郎（一般財団法人キャノングローバル戦略研究所研究主幹、慶應義塾大学経済学部教授）	
10:00	開会挨拶	小林 慶一郎（一般財団法人キャノングローバル戦略研究所研究主幹、慶應義塾大学経済学部教授）
10:05	特別報告①	「地方自治におけるフューチャー・デザインの社会実装に向けて：矢巾町 FD 条例案による制度化の試み」
		花立 孝美（岩手県矢巾町企画財政課課長）、高橋 雅明（岩手県矢巾町教育委員会学校教育課課長）
11:05	休憩	
	司会：岡本 剛（九州大学基幹教育院准教授）	
11:00	一般報告①	「財務省におけるフューチャー・デザインの取組」
		永野 あきほ（環境省大臣官房総合環境政策統括官グループ環境経済課課長補佐）、大本 エリナ（財務省主計局調査課課長補佐）
11:30	一般報告②	「個々人の多様な価値観に基づく「ありたい」未来像の共創：第12回科学技術予測調査（仮）」
		岡村 麻子（文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術予測・政策基盤調査研究センター主任研究官）
12:00	昼休み	
	司会：高橋 雅明（岩手県矢巾町教育委員会学校教育課長）	
13:00	特別報告②	「Cardiff からその先へ：Office of the Future Generations Commissioner for Wales でのFD 実践とその後の進捗」
		一原 雅子（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所基盤研究部・京都気候変動適応センター特別研究員（RPD）／日本学術振興会特別研究員）
14:00	休憩	
	司会：西村 直子（日本学術会議連携会員、立命館大学教授、大阪大学社会経済研究所特任教授）	

14:05	一般報告③	"Does future framing affect people's contribution to climate change mitigation? Evidence from an online experiment" Botao Qin, Jinhe Center for Economic Research, Xi'an Jiaotong University
14:35	一般報告④	"Sustainable Futuristic Visioning for Low-Carbon Heritage" Farzaneh Gharaati, Ph.D. Candidate, Department of Architecture, Tarbiat Modares University, Tehran, Iran
15:05	休憩	
	司会：一原 雅子（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所基盤研究部・京都気候変動適応センター特別研究員（RPD）／日本学術振興会特別研究員）	
15:15	一般報告⑤	"Soilbase for healthy Future Generations: Future Design Pilots in Amsterdam" Olivier de Vette, Department of Epidemiology and Data Science, Amsterdam University Medical Centers, University of Amsterdam, the Netherlands
15:45	一般報告⑥	"Enhancing human imagination: adding creativity to Future Design for deeper experiences in a condensed workshop format." Rick Koster and Igor Verettas, Leadership & organization consultants
16:15	一般報告⑦	"Taking the board of an engineering university to 2050" Hugues Benoit-Cattin, INSA Lyon, Stéphane Grumbach, INRIA
16:45	休憩	
	司会：西條 辰義（日本学術会議連携会員、京都先端科学大学特任教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員教授）	
16:55	基調講演	"Sustainability in the Anthropocene" Henrik Österblom (Director of the Anthropocene Laboratory, the Royal Swedish Academy of Sciences)
18:10	閉会挨拶	西條 辰義（日本学術会議連携会員、京都先端科学大学特任教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員教授）

9月15日(日)

	司会：中川 善典（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授、上智大学教授）	
10:00	一般報告⑧	「千曲市における住民参加システム『ポリネコ！CHIKUMA』によるこども基本法への対応と成果」 岩田 崇（株式会社ハンマーバード代表、慶應義塾大学 SFC 研究所）
10:30	一般報告⑨	「京都・宇治での市民団体の取り組み（仮）」 瀬戸 真由美（フューチャー・デザイン宇治（市民団体））
11:00	一般報告⑩	「オーフス室素ワークショップにおけるフューチャー・デザイン体験イベントの報告」 林 健太郎（大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授）
11:30	休憩	
	司会：藤島 和典（一般社団法人フューチャー・デザイン理事）	
11:40	特別報告③	「フューチャー・デザイン・コンソーシアムの挑戦」 岡本 剛（九州大学基幹教育院准教授） 上月 翔太（愛媛大学教育・学生支援機構講師） 菊地 紀永（立命館大学教学推進課課長）
12:40	昼休み	
	司会：西村 直子（日本学術会議連携会員、立命館大学教授、大阪大学社会経済研究所特任教授）	
13:30	特別報告④	「長野県のソーシャルワーカーによるフューチャー・デザイン・ワークショップの展開」 中島 将（長野県社会福祉協議会）、佐藤 もも子（東御市社会福祉協議会社会福祉士）、下倉 亮一（公益財団法人長野県長寿社会開発センター）、塩入 さな江（上田市真田地域包括支援センター生活支援コーディネーター）、井上 信宏（信州大学学術研究院（社会科学系）教授）
14:30	休憩	
	司会：廣光 俊昭（財務省財務総合政策研究所）	
14:35	一般報告⑪	「世代間協力の基盤となり得る道德原理の検討一年齢層に着目してー」 高橋 茉優（東京大学大学院人文社会系研究科博士課程 2 年）

15:05	一般報告⑫	「多様なステークホルダーが語り合う地域の未来像：富士山におけるフューチャー・デザインワークショップの実践報告」
		三ツ井 聡美（筑波大学芸術系助教）、勝俣 俊二（一般社団法人カノエサル理事）、松山 美恵（山梨県富士山科学研究所研究助手）、佐伯 弘美（NPO 法人富士山クラブ事務局職員）、瀧口 千恵子（山梨県富士山科学研究所研究助手）、安田 泰輔（山梨県富士山科学研究所主幹研究員）、織 朱實（上智大学大学院地球環境学研究科教授）、中川 善典（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授、上智大学教授）
15:35	一般報告⑬	「住民たちの住民たちによる FD！高知県梶原町での取り組み」（仮）
		田村 俊夫（ゆすはら地域政策研究所代表）
16:05	休憩	
	司会：小林 慶一郎（一般財団法人キャノングローバル戦略研究所研究主幹、慶應義塾大学経済学部教授）	
16:15	特別報告⑤	「FD マニュアルの公開」
		中川 善典（日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所教授、上智大学教授）
16:30	一般報告⑭	「フューチャー・デザイン：過去可能性、現在可能性、将来可能性」
		西條 辰義（日本学術会議連携会員、京都先端科学大学特任教授、大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所客員教授）
17:00	閉会挨拶	小林 慶一郎（一般財団法人キャノングローバル戦略研究所研究主幹、慶應義塾大学経済学部教授）

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「農業デジタルツインの現状と展望」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・農学委員会合同 CIGR 科会、食料科学委員会・農学委員会合同農業情報システム学分科会、農学委員会農業生産環境工学分科会、CIGR Plant Factory and Intelligent Greenhouse Working Group、日本生物環境工学会
2. 共 催：大阪公立大学（調整中）
3. 後 援：大阪公立大学植物工場研究センター、豊橋技術科学大学先端農業・バイオリサーチセンター、愛媛大学先端農業 R&D センター、UECS 研究会、九州大学データ駆動イノベーション推進本部データ駆動型農業研究ユニット、日本農業工学会（調整中）
4. 日 時：令和 6 年（2024 年）9 月 19 日（木）13：30 ～ 17：30
5. 場 所：大阪府立国際会議場（大阪府大阪市北区中之島 5 丁目 3-51）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：

国際的にみると、農業は、気候変動、人口増加、食料安全保障など多くの課題に直面している。一方で、国内においては、農業生産者の急激な減少と担い手の高齢化が深刻な問題となっている。このような複雑で多面的な農業の課題を効果的に解決する糸口を見つけるために、農業生産システムをデジタル空間上に精密に再現した“デジタルツイン農場”の活用が期待がよせられている。たとえば、デジタルツインの生産現場における 3 次元物理シミュレーションによって、農作業ロボットの動作を最適化したり、生体情報計測 IoT の最適配置を検討したりすることが可能になる。これは、新技術の開発の効率化だけでなく、開発物のプロトタイプを生産現場に導入した際のリスクを事前に安価にかつ短時間で把握できることを意味する。また、作物成育シミュレーションの結果をデジタルツインで再現し、これを VR ゴーグルを装着した生産者が目視で確認した上で栽培管理戦略を策定するといった、従来の農業生産ノウハウとデジタルツインの融合も可能であり、実際の農業現場とデジタル空間を重ね合わせた複合現実（MR）システムの活用も農業生産の課

題解決に資すると期待される。本シンポジウムでは、国内外の研究者がデジタルツインの農業活用を念頭においた最新の研究成果や実践例を紹介し、今後の農学デジタルツインの展開を議論する。

9. 次 第：

＜総合司会＞ 福田 弘和（日本学術会議連携会員／大阪公立大学大学院工学研究科機械系専攻機械工学分野教授）

13:30 開会の挨拶

後藤 英司（日本学術会議第二部会員／日本生物環境工学会会長／千葉大学大学院園芸学研究院教授）

第1部 DTによる農業問題の解決

＜司会＞ 藤内 直道（愛媛大学大学院農学研究科助教）

13:45 「日本の施設園芸の今後におけるデジタルツインの可能性」

岡安 崇史（日本学術会議連携会員／九州大学大学院農学研究科教授）

14:10 「オランダにおけるデジタル農業技術」

Dr. Rick van de Zedde（オランダ Npec（エコフェノタイピングセンター））
（調整中）

14:35 「英国における都市農業デジタルツイン」

Prof. Ruchi Choudhary（ケンブリッジ大学教授）

15:00 - 15:10（休憩）

第2部 複合現実インタフェースと最適化シミュレーション

＜司会＞内藤 裕貴（東京大学生物環境情報工学研究室助教）

高橋 憲子（日本学術会議連携会員／愛媛大学大学院農学研究科准教授）

15:15 「XR 技術の最新動向（ロボティクスと教育工学の最新動向）」

浦西 友樹（大阪大学サイバーメディアセンター教授）

15:40 「最先端植物3Dモデリング」

大倉 史生（大阪大学大学院情報科学研究科准教授）

16:00 「ゲーミングAIによる栽培最適化シミュレーション」

福田 弘和（日本学術会議連携会員／大阪公立大学大学院工学研究科機械系専攻機械工学分野教授）

16:20 - 16:40（休憩）

16:40 パネルディスカッション

<コーディネーター>

高山 弘太郎（日本学術会議第二部会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
／愛媛大学大学院農学研究科教授）

<パネリスト>

林 絵理（日本学術会議連携会員／特定非営利活動法人植物工場研究会理事長）

彦坂 晶子（日本学術会議第二部会員／千葉大学大学院園芸学研究院准教授）

後藤 仁志（豊橋技術科学大学情報メディア基盤センター教授）

岡安 崇史（日本学術会議連携会員／九州大学大学院農学研究院教授）

浦西 友樹（大阪大学サイバーメディアセンター教授）

大倉 史生（大阪大学大学院情報科学研究科准教授）

福田 弘和（日本学術会議連携会員／大阪公立大学大学院工学研究科機械系専攻機
械工学分野教授）

17:20 閉会の挨拶

澁澤 栄（日本学術会議連携会員／東京農工大学卓越リーダー養成機構特任教
授）

17:30 閉会

10. 関係部の承認の有無： 第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無： 無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会
「奄美群島の豊かな自然と文化的多様性」 (仮題)
の開催について

1. 主 催：日本学術会議九州・沖縄地区会議
2. 共 催：鹿児島大学
3. 後 援：未定
4. 日 時：令和6年（2024年）10月9日（水）14：00 ～ 16：10
5. 場 所：鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール
(鹿児島県鹿児島市郡元1丁目21-24) (ハイブリッド開催)
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

奄美群島は、奄美大島と徳之島が2021年7月に世界自然遺産登録されたことが示すように、国内最大規模を誇る亜熱帯多雨林、広大なマングローブ林、河口部に広がる干潟など、多様な環境に多くの固有種が生息・生育しています。また、そのような豊かな自然に根ざした暮らしや風土から育まれてきた固有の文化も存在しています。

しかしながら、地球温暖化による急速な自然環境の変化や世界遺産登録後のオーバーツーリズムに伴う動植物の持ち出しなどにより奄美群島の多様な生態系への影響が懸念されています。また、急速に進む少子高齢化や過疎化によって奄美固有の言語や音の文化が失われつつあります。

本学術講演会では、奄美群島を中心に、植物や動物の多様性、奄美固有の言語や音の文化に関する最前線の研究を紹介し、奄美群島の自然と文化を取り巻く様々な課題を共有するとともに、持続可能な社会を構築していくための示唆を得る機会とします。

9. 次 第：

14:00～14:10 開会挨拶

日比谷 潤子（日本学術会議副会長）

佐野 輝（国立大学法人鹿児島大学長）

14:10～14:35 講演 1

田金 秀一郎（鹿児島大学総合研究博物館・准教授）
14:35～15:00 講演 2
藤田 志歩（鹿児島大学共通教育センター・教授）
15:00～15:10 休憩
15:10～15:35 講演 3
坂井 美日（鹿児島大学共通教育センター・准教授）
15:35～16:00 講演
原田 敬子（東京音楽大学・教授）
16:00～16:10 閉会挨拶
内田 誠一（日本学術会議第三部会員・九州・沖縄地区会議代表幹事、
九州大学大学院システム情報科学研究院教授）

司会進行：郡山 千早（日本学術会議連携会員、
鹿児島大学副学長・医歯学総合研究科教授）

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

公開シンポジウム
「防災士による地域防災力の向上～行政および研究機関との連携強化の進め方～」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会 IRDR 分科会、防災減災連携研究ハブ (JHoP)
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和6年（2024年）10月19日（土）or 20日（日）14：30 ～ 16：00
5. 場 所：熊本城ホール（熊本県熊本市中央区桜町 3-40）、熊本市国際交流会館（熊本県熊本市中央区花畑町 4-18）、花畑広場（熊本県熊本市中央区花畑町 7-10）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

能登半島地震からも明白であるが、地域防災力の向上は、依然として重要な課題である。被災地では応急復旧の手が足りないという声がある。全国に28万人以上いる防災士は、防災の知識やマインドを備えた人材であり、防災の知識や経験、手法を紹介するファシリテータとしての役割も期待されている。防災士、行政、研究者それぞれのコミュニティから、地域防災力の向上のために行いうるアクションを議論し、今後の展望を明らかにする。

9. 次 第：

14：30 趣旨説明

寶 馨（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長／京都大学名誉教授）

14：40 【基調講演：防災士に期待する地域防災力の向上】

室崎 益輝（特定非営利活動法人日本防災士会理事長）

【報告：地域防災力の向上のための活動・事例】

14：55 「継続的な活動基盤の構築を目指して（仮題）」

竹内 裕希子（NPO 法人くまもと防災士会代表理事）

15：05 「令和2年7月豪雨時の被災者への対応の実際（仮題）」

藤村 文子（熊本県人吉市健康福祉部福祉課主任）

15：15 「令和6年能登半島地震における DWAT（災害派遣福祉チーム）の地域活動（仮題）」

名取 直美（株式会社富士通総研行政経営グループチーフシニアコンサルタント／
公共政策研究センター上級研究員）

15：25 【総合討論～行政および研究機関との連携強化の進め方～】

（モデレーター）

臼田 裕一郎（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人防災科学技術研究所総合防災情報センター長／防災情報研究部門長）

（パネリスト）

室崎 益輝（特定非営利活動法人日本防災士会理事長）

竹内 裕希子（NPO 法人くまもと防災士会代表理事）

藤村 文子（熊本県人吉市健康福祉部福祉課主任）

名取 直美（株式会社富士通総研行政経営グループチーフシニアコンサルタント／
公共政策研究センター上級研究員）

15：55 閉会挨拶

小野 裕一（日本学術会議連携会員／東北大学災害科学国際研究所副研究所長／教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「第 19 回防災学術連携シンポジウム『土地を知り、土砂災害・地盤災害に備える』」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議防災減災学術連携委員会
2. 共 催：一般社団法人防災学術連携体
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和 6 年（2024 年）10 月 19 日（土）～20 日（日）
（防災推進国民大会 2024（主催：内閣府、防災推進協議会、防災推進国民
会議）の期間内に開催）
5. 場 所：オンライン開催
※防災推進国民大会 2024 の中の一企画案
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

地球温暖化の進行につれ、気象災害と地震災害が複合的に生じるリスクが高まっています。土砂災害や宅地災害等の地盤災害はこのような複合的要因により発生し、我々の命や生活に大きな影響を及ぼします。この災害を防ぐためには、土地の成り立ちや災害のリスクを人々がよく理解し、適切な対応をとることが重要です。本セッションでは、関連する分野の専門家をパネリストに迎え、一般の方にも分かりやすく防災につながるお話をいただく予定です。

9. 次 第：

所要時間 90 分

司会：永野 正行（日本学術会議連携会員、東京理科大学創域理工学部建築学科教授）

山本 佳世子（日本学術会議連携会員、電気通信大学大学院情報理工学研究科教授）

（1）開会のあいさつ：竹内 徹（日本学術会議第三部会員／防災減災学術連携委員会委員
長／東京工業大学環境・社会理工学院教授）（2 分）

（2）趣旨説明：渦岡 良介（一般社団法人防災学術連携体幹事／公益財団法人地盤工学会
会長／京都大学防災研究所教授）（2 分）

- (3) 「博物館で集めたボーリング資料で探る大阪平野地下の地層とおいたち」 (仮題)
大阪市立自然史博物館：石井 陽子 (地方独立行政法人大阪市博物館機構大阪市立
自然史博物館学芸課学芸員) (15 分)
- (4) 「誰一人土砂災害から取り残さない・取り残らない防災教育の構築」 (仮題)
日本地学教育学会：藤岡 達也 (滋賀大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 (教
職大学院) 教授) (15 分)
- (5) 「高校地理教育で育む、土砂災害に備える力・持続可能な地域をつくる力」 (仮題)
公益社団法人日本地理学会：高橋 裕 (豊島岡女子学園中学高等学校教諭) (15 分)
- (6) 「地形や地質、地盤情報などを用いて防災を考える一見えにくい防災リスクを抽出
する一」 (仮題)
一般社団法人日本応用地質学会：北田 奈緒子 (一般財団法人 GRI 財団理事) (15
分)
- (7) 「熊本地震における地盤品質判定士の活躍とその後の社会貢献」 (仮題)
一般社団法人地盤品質判定士会：笠間 清伸 (一般社団法人地盤品質判定士会九州
支部支部長／九州大学大学院工学研
究院教授) (15 分)
- (8) 質疑応答 (9 分)
- (9) 閉会のあいさつ：米田 雅子 (一般社団法人防災学術連携体幹事) (2 分)

10. 関係部の承認の有無：課題別委員会のため無

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催委員会委員)

公開シンポジウム
「地域課題解決に挑む実践型アカデミー創設に向けて
ー那須地域から始まる未来実装学アカデミー」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議若手アカデミー、那須会議実行委員会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和6年10月26日（土）14：00 ～ 17：00
5. 場 所：那須ハイランドパーク イベント館（栃木県那須郡那須町高久乙 3375）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

日本学術会議若手アカデミーは、人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野において、最先端の研究に取り組む45歳未満の研究者が一堂に会する組織です。次世代のイノベーション創出を担う意識を持ち、科学と学術が行政や産業界、市民社会と連携し、広範なイノベーションを創出する方法を議論し、具体的な課題解決に取り組んできました。その議論の成果として、見解「2040年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき10の課題」を2023年（令和5年）9月に発表しました。

この10の課題のひとつが「セクターを越えた共創プラットフォームの整備」です。アカデミアが産業界、行政、地域社会と連携し、重要な領域横断的課題を解決するための共創の場を整備することが急務であるとしています。本シンポジウムでは、未来実装人材の育成とコミュニティづくりを実践する「未来実装学」と、その確立を目指す「未来実装学アカデミー」の創設に向けた議論を行います。

未来実装学のスタート地点となる那須地域には、国内最大規模のリビングラボがあり、未来社会の実現に向けたソリューションの共創、実証実験、社会実装の場が提供されています。ここには各領域を越境するインタープレナーたちが集い、多様な取組が展開されています。自然と地域が共生する広大な実証フィールドを舞台に、地域課題解決の最前線に挑む実践型アカデミーの創設を目指しています。

このシンポジウムでは、未来社会の実現に向けた具体的なアプローチを共有し、新たな共創プラットフォームの構築に向けた第一歩を踏み出します。

9. 次 第：

司会：藤岡 沙都子（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学理工学部応用化学科准教授、
若手アカデミー未来を拓く学術イノベーション分科会副委員長）

14:00 開会挨拶・趣旨説明

小野 悠（日本学術会議連携会員／豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授、若
手アカデミー代表）

14:10 来賓挨拶

渡辺 美知太郎（那須塩原市長）（予定）
平山 幸宏（那須町長）（予定）
相馬 憲一（大田原市長）（予定）

14:20-14:40 基調講演「課題先進国から課題解決先進国へ（仮）」

小宮山 宏（株式会社三菱総合研究所理事長）

14:40-15:00 ミッション・ステートメント「那須地域から始まる未来実装学アカデミー」

南澤 孝太（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究
科教授、若手アカデミー幹事）

高瀬 堅吉（日本学術会議連携会員／中央大学大学院文学研究科心理学専攻教授）

15:00-15:50 パネルディスカッション「未来実装学アカデミーの射程」

パネリスト：

小宮山 宏（株式会社三菱総合研究所理事長）
大島 彰（那須塩原市企画部企画政策課企画政策担当グループリーダー）
神原 咲子（日本学術会議連携会員／神戸市看護大学看護学部教授）
留目 真伸（SUNDRED 株式会社代表取締役 CEO）
林 みゆき（那須塩原市議会議員）
山田 メユミ（株式会社アイスタイル取締役）

モデレーター：

吉田 直樹（一般社団法人 Japan Innovation Network フェロー／一般社団法人プ
ラチナ構想ネットワーク社会実装推進会員）

15:50-16:00 休憩

16:00-16:50 パネルディスカッション「地域課題解決の最前線に挑み、未来を切り拓く」

パネリスト：

磯 翔（一般社団法人 AppleBase 理事長）

印南 清四郎（那須塩原市企画部企画政策課企画政策担当主査）

田家 南奈（A-1 TOYOTA）

武田 秀太郎（日本学術会議連携会員／九州大学都市研究センター准教授、若手アカデミー未来を拓く学術イノベーション分科会委員長）

八木澤 玲玖（株式会社那須旅代表取締役社長）

モデレーター：

近藤 康久（日本学術会議連携会員／大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所基盤研究部教授）

16:50-17:00 閉会挨拶

南澤 孝太（日本学術会議連携会員／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授／若手アカデミー幹事）

10. 関係部の承認の有無：若手アカデミーのため該当しない

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム
「歴史教育シンポジウム（「歴史総合」をめぐって(8)）－
歴史総合・日本史探究・世界史探究の史資料を使う」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、史学委員会教育現場・社会における歴史実践と歴史認識に関する分科会、日本歴史学協会
2. 共 催：なし
3. 後 援：高大連携歴史教育研究会
4. 日 時：令和6年（2024年）10月27日（日）13：00 ～ 17：00
5. 場 所：一橋大学（東キャンパス）東2号館 2201 教室（東京都国立市中2－1）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

このシンポジウムでは、昨年まで「歴史総合」について7回検討してきた。すでに歴史総合の授業が始まって3年目に入り、日本史探究と世界史探究の授業が始まって2年目になっている。

歴史総合と日本史探究や世界史探究の教科書を見ると、従来の教科書に比較して、文字資料を始め、絵画資料・写真・地図・グラフや表などが、格段に増加している。しかし、その史資料の持っている歴史的意味や授業での使い方に関しては、教科書では必ずしも十分に説明されていない。

今回のシンポジウムでは、このような状況を受けて、教科書に掲載されている史資料を始めとして、教科書に掲載されていない史資料にまで視野を広げて、歴史教育における史資料について考えてみたい。充実した授業をどう作るのが歴史総合と日本史探究・世界史探究をより充実させる鍵であろうと考える。

9. 次 第：

司会：高澤 紀恵（国際基督教大学名誉教授）

久留島 典子（日本学術会議連携会員／総合研究大学院大学理事・副学長）

開会挨拶	<u>大橋 幸泰（日本学術会議第一部会員／早稲田大学教授）</u>
趣旨説明	<u>鈴木 茂（日本学術会議連携会員／中西学園名古屋外国語大学教授 ／学部長）</u>
報告	藤波 潔（沖縄国際大学教授） 「高校歴史系科目における史資料活用と教員養成」 戸川 点（拓殖大学教授） 「日本史探究で歴史史資料をどう使うか」 五十嵐 諒子（国際基督教大学高等学校教諭） 「歴史総合における史資料を用いた授業実践」
コメント	<u>小田中 直樹（日本学術会議第一部会員／東北大学大学院教授）</u>
閉会挨拶	<u>若尾 政希（日本学術会議連携会員／第31期日本歴史学協会委員 長／一橋大学特任教授・名誉教授／大学共同利用機 関法人人間文化研究機構理事）</u>

10. 関係部の承認の有無：第一部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催委員会・分科会委員）

公開シンポジウム
「バイオマテリアル・生体医工学の研究開発戦略」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会合同バイオマテリアル分科会、機械工学委員会・基礎医学委員会・電気電子工学委員会・材料工学委員会合同生体医工学分科会
2. 共 催：日本バイオマテリアル学会、東北大学大学院医工学研究科
3. 協 賛：一般社団法人日本人工臓器学会、一般社団法人日本歯科理工学会、公益社団法人日本金属学会、公益社団法人日本セラミックス協会、一般社団法人繊維学会、公益社団法人高分子学会、一般社団法人日本 MRS、一般社団法人日本再生医療学会、日本 DDS 学会、一般社団法人日本骨代謝学会、一般社団法人ライフサポート学会、一般社団法人スマートプロセス学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人日本生体医工学会、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）、日本歯科器械工業協同組合、一般社団法人日本医療機器産業連合会（以上すべて予定）
4. 日 時：令和6年（2024年）10月29日（火）9：30 ～ 12：00
5. 場 所：仙台国際センター会議棟（宮城県仙台市青葉区青葉山）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし
8. 開催趣旨：
医療機器、人工臓器、機能分子などの素材となるバイオマテリアル、その基盤の上に立つ生体医工学の研究開発には、材料科学・工学、分子化学、機械工学、生体工学、生命科学、臨床医学、歯学、薬学などの学術融合とこれらの分野に所属する研究者の相互理解が必須である。また、関連の学術研究団体との連携なくしては、新たな学術領域を創出することはできない。本公開シンポジウムでは、バイオマテリアル分科会及び生体医工学分科会の日本学術会議での活動内容を紹介するとともに、活動がバイオマテリアル・生体医工学の研究開発に如何に貢献できるかを討論し、今後の学術研究戦略を展望する。

9. 次 第：

9:30-9:40

- 1) 開会挨拶・趣旨説明：埴 隆夫（日本学術会議第三部会員／材料工学委員会・臨床医学委員会・歯学委員会・化学委員会合同バイオマテリアル分科会委員長／大阪大学大学院工学研究科特任教授／神戸大学大学院医学研究科客員教授）

9:40-10:40

- 2) バイオマテリアル分科会・生体医工学分科会参画委員会活動紹介

司会：田中 真美（日本学術会議第三部会員／東北大学大学院医工学研究科教授）

- (1) 「材料工学委員会の活動とバイオマテリアル・生体医工学に期待すること（仮）」
中野 貴由（日本学術会議第三部会員／大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻教授）
- (2) 「臨床医学委員会の活動とバイオマテリアルに期待すること（仮）」
斯波 真理子（日本学術会議第二部会員／大阪医科薬科大学循環器センター特務教授）
- (3) 「歯学委員会の活動とバイオマテリアルに期待すること（仮）」
宇尾 基弘（日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）
- (4) 「化学委員会の活動とバイオマテリアルに期待すること（仮）」
三浦 佳子（日本学術会議第三部会員／九州大学大学院工学研究院化学工学部門教授）
- (5) 「機械工学委員会の活動と生体医工学に期待すること（仮）」
松本 健郎（日本学術会議第三部会員／名古屋大学未来社会創造機構予防早期医療創成センター教授）

10:40-11:20

- 3) 提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」紹介

司会：大矢根 綾子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所ナノ材料研究部門総括研究主幹）

- (1) 「提言「未来の学術振興構想（2023 年版）」全体説明」
大矢根 綾子（日本学術会議連携会員／国立研究開発法人産業技術総合研究所ナノ材料研究部門総括研究主幹）
- (2) 「No24 「いのち彩る医療」を実現するバイオマテリアル界面科学の構築」
石原 一彦（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院工学研究科特任教授／東京大学名誉教授）
- (3) 「No25 健康・幸福寿命の延伸に資するスマート歯科医学・歯科医療の実現」

宇尾 基弘（日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）

（４）「No27 健康寿命延伸・QOL 向上のための ICT 人工臓器研究開発の進展」

増澤 徹（日本学術会議連携会員／茨城大学副学長／学術研究院応用理工学野教授）

（５）（仮）「No33 生体－人工物の融合を通じて高い QOL を実現する持続可能な社会・生態系のための革新的生体医工学の創成」

佐久間 一郎（東京大学大学院工学系研究科教授）

11:20-11:55

４）総合討論

テーマ：バイオマテリアル・生体医工学の研究開発戦略

モデレータ：石川 邦夫（日本学術会議連携会員／日本バイオマテリアル学会会長／九州大学大学院歯学研究院教授）

パネリスト：

（１）石原 一彦（日本学術会議連携会員／大阪大学大学院工学研究科特任教授／東京大学名誉教授）

（２）宇尾 基弘（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）

（３）里見 智美（独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）医療機器情報専門官）

（４）斯波 真理子（日本学術会議第二部会員／大阪医科薬科大学循環器センター特務教授）

（５）鈴木 治（日本学術会議連携会員（特任）／東北大学大学院歯学研究科教授）

（６）西條 芳文（日本学術会議連携会員／東北大学大学院医工学研究科教授）

（７）増澤 徹（日本学術会議連携会員／茨城大学副学長／学術研究院応用理工学野教授）

11:55-12:00

５）閉会挨拶：松本 健郎（日本学術会議第三部会員／名古屋大学未来社会創造機構予防早期医療創成センター教授）

10. 関係部の承認の有無：第三部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム
「女性理系研究者が拓く未来—歯学から芽生える新たな可能性」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会、歯学委員会病態系歯学分科会、
歯学委員会臨床系歯学分科会、科学者委員会ジェンダー・エクイティ分科会
2. 共 催：公益社団法人日本矯正歯科学会、先端歯学国際教育研究ネットワーク
3. 後 援：日本生命科学アカデミー（予定）
4. 日 時：令和6年（2024年）10月30日（水）16：00 ～ 18：00
5. 場 所：パシフィコ横浜（神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1）（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

世界保健機関（WHO）は、「口腔の健康」を、食べる、話す、呼吸するといった、人が人らしく生活する上で欠かせない重要な機能を支障なく営むことができる口・歯・口腔顔面構造の状態と定義しています。これは単に、“肉体的に異常がない”ということだけにとどまらず、“自信に満ちている”、“身体的・精神的・社会的に良好な状態にある”、“痛み・不快感・当惑感を自覚することなく社会生活に順応したり就労したりできる”といった心理・社会的な面をも含んだより包括的な概念となっています。歯学は、顎口腔系の機能に不調をもたらす疾患・障害・身体的状態を予防・治療・研究する医療系学問分野として発展してきました。また近年では、適切な口腔ケアが生活習慣病や認知障害等の全身疾患の予防に寄与し全人的な健康への橋渡しとなることから、健康長寿社会実現に向けた鍵となる領域として注目されています。

一方、現在我が国の理系研究分野において活躍する女性の割合は、OECD加盟国中最低レベルとなっており、科学者コミュニティにおけるダイバーシティー・エクイティの実現や、夢のある女性理系研究者のロールモデル構築による次世代人材育成が急務となっています。歯学分野からは、先端技術を駆使した最新の歯科医療を研究・実践するアカデミックドクターのみならず、歯学の枠にとらわれず未来のライフサイエンスを野心的に切り拓く第一線の研究者まで、多様な女性人材が輩出されているものの、指導的立場で活躍する

女性の数はまだ決して多いとは言えません。そこで、本シンポジウムでは、基礎、臨床の分野の最前線で活躍される女性歯科医師・研究者をお招きし、ご自身の研究テーマとの出会いやその醍醐味をご紹介いただくとともに、多様性と包摂性を持って歯学のエンパワーメントを図る方策についてご提言をいただく予定です。是非多数の方々のご参加をお待ちしております。

9. 次 第：

1) 挨拶

16:00 村上 伸也（日本学術会議第二部会員／大阪大学名誉教授）
新井 一仁（公益社団法人日本矯正歯科学会理事長）

2) 講演

座長： 樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院教授）

石丸 直澄（日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）

16:05 イントロダクション

16:10 『ジェンダーダイノバージョンのススメ：父加齢と次世代継承エピジェネティクス』

大隅 典子（日本学術会議連携会員／東北大学副学長／内閣府健康・医療戦略推進事務局健康・医療戦略参与）

16:50 『Breaking Boundaries：完璧を求めないという方法』

茂呂 和世（大阪大学大学院医学系研究科教授／国立研究開発法人理化学研究所生命医科学研究センター（IMS）自然免疫システム研究チームチームリーダー）

17:15 『老若男女すべての人の「健康と笑顔の礎」である歯を取り戻すために～理想的な顎骨・歯肉の再生と咬合の再建を追求する～』

丸川 恵理子（日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学口腔再生再建学分野・口腔インプラント科教授）

3) 総合討論

17:40 進行：

樋田 京子（日本学術会議第二部会員／北海道大学大学院歯学研究院教授）

石丸 直澄（日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授）

討論者：

大隅 典子（日本学術会議連携会員／東北大学副学長／内閣府健康・医療

戦略推進事務局健康・医療戦略参与)

茂呂 和世 (大阪大学大学院医学系研究科教授／国立研究開発法人理化学研究所生命医科学研究センター (IMS) 自然免疫システム研究チームチームリーダー)

丸川 恵理子 (日本学術会議連携会員／東京医科歯科大学口腔再生再建学分野・口腔インプラント科教授)

山城 隆 (日本学術会議連携会員／大阪大学大学院歯学研究科教授)

4) 挨拶

17:55 森山 啓司 (日本学術会議第二部会員／東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授)

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無： 無

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

日本学術会議中国・四国地区会議学術講演会
「社会的課題と学術統合による研究と教育」 (仮題)
の開催について

1. 主 催：日本学術会議中国・四国地区会議
2. 共 催：高知県公立大学法人高知工科大学
3. 後 援：国立大学法人高知大学
4. 日 時：令和6年11月30日（土）13：30 ～ 17：10
5. 場 所：高知工科大学永国寺キャンパスA213教室（仮）（高知県高知市永国寺町2番22号）
（ハイブリッド開催）
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

国内外の社会経済は益々複雑化し不確実性が高くなり、新たな先端的技術や仕組みの登場により、新たな可能性とともに将来の不確実性も増大しています。社会的課題はもはや単独の学問で解き明かすことが困難となっています。

そのような中で国際学術会議は10年以上にわたり多様な科学的及び社会的視点を統合する方法で知識を生み出すことの重要性を指摘しています。学際的な科学は、科学と政策及び実践を繋ぐことで社会的課題に対して実行可能な知識を提供するとしており、今日の大学における教育研究の在り方にも影響を及ぼしています。学際的な科学は、社会的課題に対する実行可能で文脈に応じたより繊細な知識と解決策を生成するのに役立つだけでなく、科学と政策、実践との間のより密接な関係を構築することを前提とした科学の形態でもあります。

本学術講演会は、このような文脈の中で大学の研究及び教育の在り方について様々な学術分野の立場から迫ります。

9. 次 第：

(1) 開会挨拶

13：30 ～ 13：45

日本学術会議副会長 三枝 信子

(日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人国立環境研究所地球システム領域領域長)
蝶野 成臣 (高知工科大学長)

(2) 趣旨説明

13 : 45 ～ 13 : 50

那須 清吾 (日本学術会議連携会員、中国・四国地区会議運営協議会委員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授)

(3) 講演

13 : 50 ～ 14 : 20 「多様化する社会的課題に資する高等教育機関へ向けて」

岩田 誠 (日本学術会議連携会員、高知工科大学副学長・情報学群教授)

14 : 20 ～ 14 : 50 「知識創造と社会デザイン：大学院リーグが目指す変革とは」

永井 由佳里 (日本学術会議第三部会員、北陸先端科学技術大学院大学理事・副学長、高知大学客員教授・非常勤講師)

14 : 50 ～ 15 : 20 「理論と実践の隙間を埋めるPBL教育の試み」

土屋 哲 (日本学術会議連携会員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授)

15 : 20 ～ 15 : 30 休憩

15 : 30 ～ 16 : 00 「Advanced Technology と 看護」

大坂 京子 (高知大学医学部看護学科長・教育研究部医療学系看護学部門教授)

16 : 00 ～ 16 : 30 「学術統合による課題構造化とDXシステム研究」

那須 清吾 (日本学術会議連携会員、中国・四国地区会議運営協議会委員、高知工科大学経済・マネジメント学群教授)

16 : 30 ～ 17 : 00 「高知から世界へ！ヘルスケアイノベーションの挑戦」

菅沼 成文 (高知大学副学長・教育研究部医療学系長・MEDiセンター長・連携医学部門教授)

(4) 閉会挨拶

17 : 00 ～ 17 : 10

藪田 ひかる (日本学術会議第三部会員、中国・四国地区会議代表幹事、広島大学大学院 先進理工系科学研究科教授)

10. 関係部の承認の有無：科学者委員会承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

(下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員)

公開シンポジウム
「動物の安楽死を考える」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会

2. 共 催：日本法獣医学会

3. 後 援：なし

4. 日 時：令和6年（2024年）11月30日（土）15：30 ～ 17：30

5. 場 所：オンライン開催

6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無

7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

動物に関わる倫理的な諸問題は、現在の社会の大きな関心事となり、広く認知されつつあります。中でも、「安楽死」により、動物を不必要な疼痛や苦痛・苦悩から如何に解放するかについては、その是非も交えて様々な議論が行われてきました。

本シンポジウムでは、動物の「安楽死」について、伴侶動物、産業動物、野生動物の各々の専門家から現場における状況と安楽死に関する意見を聞き、科学的な根拠と手法に関する議論を行います。

9. 次 第：

<司会> 石塚 真由美（日本学術会議連携会員／北海道大学大学院獣医学研究院教授）

15:30 開会の挨拶

堀 正敏（日本学術会議第二部会員／東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室教授）

15:35 「伴侶動物の安楽死」

長嶺 隆（NPO 法人どうぶつたちの病院 沖縄 理事長）

- 15:55 「殺処分ゼロの弊害」
田中 亜紀（日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科特任教授）
- 16:15 「産業動物の安楽死」
戸上 由香梨（ドイツ連邦共和国バイエルン州上バイエルン行政地区獣医師、
ミュンヘン大学博士課程）
- 16:35 「野生動物の安楽死」
岸本 真弓（株式会社野生動物保護管理事務所シニアマネージャー）
- 16:55 総合討論
＜モデレーター＞
高橋 真吾（東京都保健医療局健康安全部健康安全調整担当課長）
町屋 奈（公益社団法人日本動物福祉協会獣医師・調査員）
＜パネリスト＞
長嶺 隆（NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄理事長）
田中 亜紀（日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科特任教授）
戸上 由香梨（ドイツ連邦共和国バイエルン州上バイエルン行政地区獣医師、
ミュンヘン大学博士課程）
岸本 真弓（株式会社野生動物保護管理事務所シニアマネージャー）
- 17:25 閉会の挨拶
内田 和幸（東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

○国内会議の後援（7件）

以下について、後援の申請があり、関係する部及び委員会に審議付託したところ、適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。

1. 第 65 回大気環境学会年会

主催：公益社団法人大気環境学会

期間：令和 6 年 9 月 11 日（水）～9 月 13 日（金）

場所：慶応義塾大学日吉キャンパス

参加予定者数：約 800 名

申請者：公益社団法人大気環境学会

会長 伊豆田 猛

審議付託先：第二部、第三部

審議付託結果：第二部、第三部承認

2. 第 45 回日本熱物性シンポジウム

主催：日本熱物性学会

期間：令和 6 年 10 月 28 日（月）～10 月 30 日（水）

場所：シティホールプラザ「アオーレ長岡」（新潟県長岡市）

参加予定者数：約 200 名

申請者：日本熱物性学会

会長 山田 雅彦

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

3. 第 67 回自動制御連合講演会

主催：システム制御情報学会・計測自動制御学会・日本機械学会・化学工学会・
精密工学会・電気学会・日本航空宇宙学会

期間：令和 6 年 11 月 23 日（土）～11 月 24 日（日）

場所：姫路商工会議所

参加予定者数：約 400 名

申請者：一般社団法人システム制御情報学会

会長 野田 哲男

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

4. サイエンスアゴラ 2024（年次総会）

主催：国立研究開発法人科学技術振興機構

期間：令和 6 年 10 月 26 日（土）～10 月 27 日（日）

場所：テレコムセンタービル、日本科学未来館、他（お台場・青海地区）

参加予定者数：約 5,000 名

申請者：国立研究開発法人科学技術振興機構

理事長 橋本 和仁

審議付託先：科学と社会委員会

審議付託結果：科学と社会委員会承認

5. 第 26 回日本感性工学会大会

主催：日本感性工学会

期間：令和 6 年 9 月 12 日（木）～ 9 月 14 日（土）

場所：タワーホール船堀

参加予定者数：約 350 名

申請者：日本感性工学会

会長 上條 正義

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

6. 第 8 回世界災害看護学会国際研究集会

主催：世界災害看護学会、神戸市看護大学

期間：令和 6 年 11 月 29 日（金）～ 12 月 1 日（日）

場所：神戸市看護大学

参加予定者数：現地約 400 名、オンライン約 500 名

申請者：第 8 回世界災害看護学会国際研究集会

大会長 神原 咲子

審議付託先：第二部

審議付託結果：第二部承認

7. SAMPE Japan 先端材料技術展 2024

主催：一般社団法人先端材料技術協会（SAMPE Japan）、株式会社日刊工業新聞社

期間：令和 6 年 9 月 18 日（水）～ 9 月 20 日（金）（現地）

9 月 11 日（水）～ 9 月 27 日（金）（オンライン）

場所：東京国際展示場（東京ビッグサイト）東ホール及びオンライン開催

参加予定者数：約 40,000 名

申請者：一般社団法人先端材料技術協会（SAMPE Japan） 会長 鵜澤 潔

株式会社日刊工業新聞社 代表取締役 井水 治博

審議付託先：第三部

審議付託結果：第三部承認

○今後の予定

●幹事会

第 3 7 0 回幹事会	令和 6 年 8 月 3 0 日（金）	1 4：3 0 から
第 3 7 1 回幹事会	令和 6 年 9 月 3 0 日（月）	1 4：3 0 から
第 3 7 2 回幹事会	第 1 9 2 回総会期間中に開催	
第 3 7 3 回幹事会	令和 6 年 1 1 月 2 8 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 7 4 回幹事会	令和 6 年 1 2 月 2 0 日（金）	1 4：3 0 から
第 3 7 5 回幹事会	令和 7 年 1 月 2 3 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 7 6 回幹事会	令和 7 年 2 月 2 7 日（木）	1 4：3 0 から
第 3 7 7 回幹事会	令和 7 年 3 月 2 7 日（木）	1 4：3 0 から

●総会

第 1 9 2 回総会	令和 6 年 1 0 月 2 1 日（月）～2 3 日（水）
-------------	--------------------------------